



# 感染症に気をつけよう！



平成25年  
【12月号】

## 横浜市内の感染症流行状況



感染症	流行状況		説明
インフルエンザ	★ 散発	➡ 横ばい	流行の目安を超えた区もあります。本格的な流行に備え、 <u>手洗い・うがい・咳エチケット</u> を守りましょう。【11月号】
RSウイルス感染症	★ やや流行	➡ 横ばい	市全体で多い状況が続いています。寒い季節に流行する風邪の一つです。予防には <u>手洗い</u> が最も大切です。【10月号】
感染性胃腸炎	★ やや流行	↗ 増加	11月中旬から市全体で増加傾向です。例年、冬を中心に流行します。下の解説を参考にして、予防しましょう。
水痘 (水ぼうそう)	★ やや流行	➡ やや増加	市全体で増加しており、 <u>警報・注意報レベルの区</u> もあります。例年、年末にかけて増加します。 <u>予防接種</u> が有効です。

## 今、気をつけたい感染症 感染性胃腸炎



ノロウイルスなどの感染が原因で、主な症状は下痢・腹痛・吐き気・嘔吐(おうと)です。例年、冬に増加し、保育園等での集団発生も多いです。通常、2~3日で回復しますが、乳幼児や高齢者では重症になることがあり、注意が必要です。

ウイルスを含んだ便や吐いた物から、口を介して感染します。そのため、予防には食事や調理の前、トイレの後などの手洗いや、汚物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。消毒には塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)が有効です。



患者さんの便や吐いた物を処理する時は、使い捨ての手袋・マスク・エプロンを着け、終わったら石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。ノロウイルスは乾燥すると空気中にたどり易く、口に入って感染する場合がありますので、処理の際には換気も大切です。



食品の調理では、中心部の温度85~90℃で90秒以上の加熱が必要です。塩素系漂白剤が使えない物でも、よく下洗いしてから、熱湯やスチームアイロンなどの蒸気を用いて、この条件で加熱すれば消毒できます。

症状が良くなってからも、長いと1か月程度は、便の中にウイルスが出ていることがあるため、手洗いを続けましょう。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】

